

筑波大学 2025

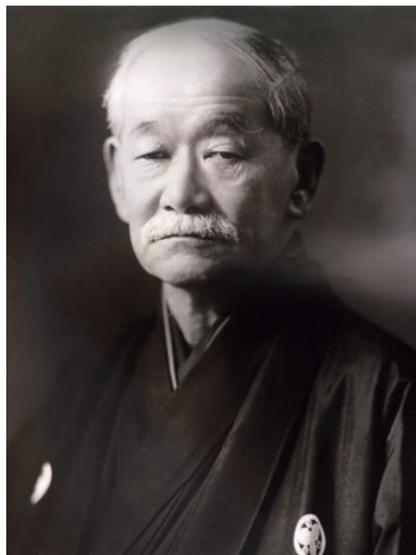
体育専門 学群



School of Physical Education,
Health & Sport Sciences
University of Tsukuba

<https://spehss.taiiku.tsukuba.ac.jp>





- 1878(明治11)年10月 体操伝習所開設
- 1885(明治18)年12月 東京師範学校に附属体操伝習所
- 1886(明治19)年04月 東京師範学校は高等師範学校と改称
附属体操伝習所を廃し、体操専修科設置
- 1902(明治35)年03月 高等師範学校を東京高等師範学校と改称
- 1915(大正02)年04月 東京高等師範学校に体育科設置
- 1924(大正13)年10月 渋谷区代々木(幡ヶ谷)に体育研究所創立
- 1941(昭和16)年03月 東京高等体育学校設置(幡ヶ谷)
- 1944(昭和19)年04月 東京高等体育学校を東京体育専門学校と改称
- 1949(昭和24)年05月 東京教育大学開学(大塚) 体育学部設置(幡ヶ谷)
- 1960(昭和35)年04月 体育学部附属スポーツ研究所設置
- 1964(昭和39)年03月 東京教育大学大学院体育学研究科(修士課程)設置
- 1967(昭和42)年04月 武道学科開設
- 1973(昭和48)年10月 筑波大学開学、体育専門学群設置
- 1976(昭和51)年04月 筑波大学体育研究科(修士課程)設置
体育科学研究科(博士課程)設置
- 1977(昭和52)年03月 東京教育大学閉学
- 1989(平成元)年04月 筑波大学大学院修士課程体育研究科(コーチ学専攻、健康教育学専攻)昼夜開講制実施
- 1990(平成02)年04月 筑波大学大学院修士課程体育研究科(体育方法学専攻)昼夜開講制実施
- 1997(平成09)年04月 筑波大学大学院修士課程スポーツ健康科学専攻開設
- 2001(平成13)年04月 筑波大学大学院人間総合科学研究科設置
- 2003(平成15)年04月 筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ健康システム・マネジメント専攻(修士課程)開設
- 2004(平成16)年04月 国立大学法人に移行
- 2006(平成18)年04月 筑波大学大学院人間総合科学研究科コーチング学専攻(3年制博士課程)開設
- 2016(平成28)年04月 筑波大学大学院人間総合科学研究科
大学体育スポーツ高度化共同専攻(3年制博士課程)開設(鹿屋体育大学との共同専攻)
スポーツ国際開発学共同専攻(修士課程)開設(鹿屋体育大学との共同専攻)
スポーツウエルネス学位プログラム(3年制博士課程)開設
- 2020(令和2)年04月 筑波大学大学院人間総合科学学術院人間総合科学研究群設置



2025 School of Physical Education, Health & Sport Sciences University of Tsukuba

学群長挨拶



筑波大学体育専門学群は、1878(明治11)年に設置された官立の体操伝習所に始まり、140年以上の歴史を有しています。体操伝習所は高等師範学校(後に東京高等師範学校と校名変更)に引き継がれると、現在筑波大学のシンボリック的存在となっている嘉納治五郎校長の下で体育科が設置されました。そして、東京高等師範学校体育科(1915年～)は、東京教育大学体育学部(1948年～)、筑波大学体育専門学群(1973年～)へと受け継がれ、今日に至っています。

この間、一貫して掲げられてきた目標は、体育・スポーツ、健康、コーチングなど体育・スポーツ関連分野におけるリーダーの養成であり、実際に、体操伝習所から筑波大学体育専門学群へと連綿と続く歴史の中で、幾多の優れた指導者(教員、監督、コーチ)や、指導的立場で活躍するトレーナー、アナリスト、マネージャー、スタッフなどの人材を養成し、世に送りだしてきました。近年では、公務員、健康系企業、スポーツ系企業、報道・出版系企業などへ進む卒業生も多くおり、その分野でも組織を統率する立場に就く者が増えています。体育専門学群にとって、さまざまな分野におけるリーダーを養成することは、長い伝統に基づく使命であり、社会に果たさなければならない責任であると考えています。これからも、使命の達成、責任の遂行に向け、教職員、学生一丸となって努力していく所存です。

また、国内外において、さまざまなスポーツ大会が開催されている中、わが国の競技力向上に寄与することも、体育専門学群の重要なミッションの1つです。筑波大学には伝統ある優れた運動部が多数あり、これまで文武不岐、自主自律、科学的思考などを重視しながら活動に励み、素晴らしい成果を上げてきました。今後とも、これまでの成果に甘んずることなく、さらに強さと品格を併せ持つアスリート、そしてチームを育成し、わが国の競技スポーツの発展に貢献していきたいと思っております。

講義、実技、実習、卒業研究、運動部活動、社会貢献活動を通じて、これまでの良き伝統を受け継ぎながら、新たな地平を開拓していく。そのような姿を教職員と学生が共に力を合わせて追求し、体育専門学群の更なる進化を目指していきます。

体育専門学群長 木塚 朝博



▶ アウトライン

筑波大学体育専門学群では、体育・スポーツ、健康、コーチングに関する最新の科学的研究成果を活かしながら、指導者の養成を目指しています。指導者には優れた運動技能と幅広い運動経験を持ち、かつ、保健体育に関する総合的知識を備えた、指導力と活力に富む豊かな人間性が求められます。そのため、本学群の教育課程では、学生が各種運動の実技と方法論を基礎としながら、約40ある卒業研究領域の中から特徴的に配列された教育課程を選ぶことができるようになっています。更には大学院との関連も考慮し、その運用には格別の配慮が払われています。

体育専門学群生は、各種運動施設及び実験実習室に恵まれ、整備された環境のもとで学習効果を上げています。各種目別に完備された運動施設は言うまでもなく、運動部活動にも十分活用されています。この運動部の活動は、単に運動技能を高めるだけでなく、社会に生きる人間としての豊かな経験を得る上でも重要な意義を持っています。そして快適で秩序ある学園生活を享受する場ともなっています。

体育専門学群は、昭和52年度から卒業生を世に送り出しています。本学群の卒業生は、中学校・高等学校・大学などの保健体育の教員はもとより、社会体育や地域保健の指導者、スポーツのコーチやトレーナー、レクリエーションのリーダー、報道・出版関係者として活躍しています。さらには企業スポーツ、リハビリテーションの指導者など幅広い分野でも活躍しています。

▶ 教育・研究の組織

昭和48年、新構想大学としてスタートした筑波大学では、他の大学とは異なり、教育組織と研究組織とが独立しており、双方が独自性を保ちつつも互いに連携することによって大学の使命である教育と研究の活性化を図ろうとしています。

学生は、学群・学類と呼ばれる教育組織に所属します。体育の場合、目的を明確にした専門的な教育を早くから行う必要があるため、学類組織をもたない単一の「専門学群」となっています。体育専門学群生は、3年進級時に体育学の3分野(下記参照)に対応した約40の研究領域(p.10卒業研究領域一覧)の中からいずれかを卒業研究領域として選択し、卒業研究をはじめとして、より専門的な学習が進められるようになっています。

また、大学院も令和2年から学位プログラム制に改組・再編され、さらに充実されました。体育に関する分野の前期課程(修士)の学位プログラムとしては、体育学、スポーツウエルネス学、スポーツ・オリンピック学、及びスポーツ国際開発学共同専攻が、後期課程(博士)の学位プログラムとしては、体育科学、スポーツ医学、コーチング学、ヒューマン・ケア科学、パブリックヘルス、スポーツウエルネス学及び大学体育スポーツ高度化共同専攻が設置され、学群卒業後も各自の関心と能力に合わせて学習と研究をさらに深めることができるようになっています。

＜体育学の3分野＞	
体育・スポーツ学	体育・スポーツを主として人文・社会科学的方法(哲学、歴史学、社会学、経営学、心理学など)を用いて教育・研究する分野
健康体力学	スポーツ・運動・健康について、主として自然科学的方法(生理学・解剖学・力学・栄養学・医学など)を用いて教育・研究する分野
コーチング学	スポーツ・運動の種目特性や運動方法および指導方法について教育・研究する分野

▶ 教育課程

体育専門学群においては、様々な体育・スポーツの専門家養成を目指しています。カリキュラムはそのような専門家になるために学習すべき内容を体系化したものです。常に時代の要請に応じ、時代を先取りするカリキュラムづくりにつとめてきました。平成25年度から新しい教育課程に再編されました。

体育専門学群の学生が履修する教育課程は、筑波大学の全学生に共通に開設される一般教養的科目「基礎科目」と体育専門学群の教育目的に即して編成する「専門科目」「専門基礎科目」に大別されます。

標準的な履修イメージ

	1年	2年	3年	4年
基礎科目	履修	履修	履修	履修
専門基礎科目		履修	履修	
専門科目			履修	履修
卒業研究				履修
教職科目	履修	履修	履修	履修

専門基礎科目は、体育・スポーツ科学を専門的に学ぶ全ての学生に共通に必要な最低限の基礎的知識・技術を習得する科目群であり、主として1～2年次で履修します。専門科目は、専門基礎科目の学習を基礎としながら、体育・スポーツの専門性をさらに向上させることを目的とした科目群であり、3年次以降に履修します。専門科目は、「キャリア支援科目」「分野別専門科目」「卒業研究領域科目」「実技系科目」の4つの科目群に分けて開設されています。

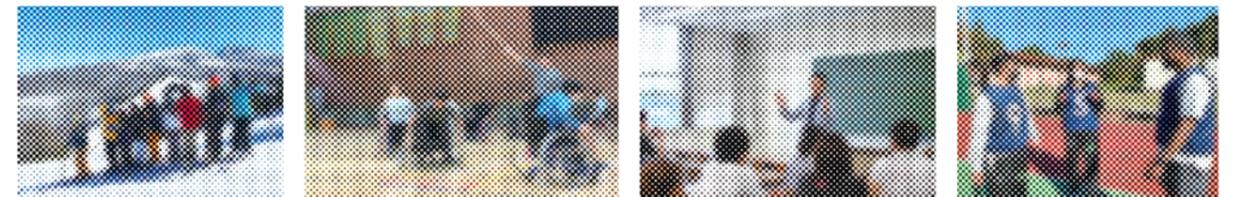
▶ 授業科目の構成

体育専門学群では、以下に示す豊富な授業科目の中から合計124単位以上を取得することが卒業要件になっています。保健体育科の教員免許状はもちろん、各種体育・スポーツ指導者の資格取得にも対応したカリキュラムになっています。

基礎科目	一般教養的科目
共通科目	総合科目 新入生に対するファーストイヤーセミナー、学問への誘い及び学士基礎科目 第1外国語 外国語の実用的言語技能を養うことを目的とする科目(体育専門学群では英語を指定) 情報 インターネット社会におけるルール・モラル・スキル・知識を身につける科目 国語 自己の意志を適確に表現し伝達する日本運用能力を養う科目
関連科目	「他学群の開設科目」「教職に関する科目」「博物館に関する科目」「自由科目(特設)」が選択できます。

専門基礎科目	専門科目の履修にあたって基礎となる科目
体育・スポーツ学分野	体育哲学、体育史・スポーツ人類学、武道学Ⅰ、スポーツ社会学、体育・スポーツ経営学、スポーツ政策学Ⅰ、体育・スポーツ心理学、スポーツ産業学
健康体力学分野	解剖学、生理学、運動生理学、運動生化学、運動栄養学Ⅰ、体力学、スポーツバイオメカニクスⅠ、健康増進学、体育測定評価学、スポーツ医学Ⅰ、衛生・公衆衛生学、健康教育学、学校保健学Ⅰ
コーチング学分野	運動学Ⅰ、運動学Ⅱ、一般コーチング学、一般トレーニング学、個別コーチング学、個別トレーニング学
実技理論・実習	各種運動群から7種目以上を選択、臨海実習、テーピング・マッサージ、学校体育実技

専門科目	興味関心・能力適性に応じて選択し、重点的に専門性を高めるための科目
キャリア支援科目	体育・スポーツの職業領域で活用される実践的な知識・技術を修得する科目 保健体育教師論、保健科内容論、オリンピック教育、体育のカリキュラムマネジメント、アダプテッドスポーツ教育、スポーツメディア論、スポーツ法学、サクセスフルエイジング論、指導者のための体力測定法、体育指導のバイオメカニクス、スポーツ傷害の予防とリハビリテーション、スポーツキャリア形成、キャリア形成インターンシップなど
分野別専門科目	体育学を構成する各個別専門諸学の専門知識をさらに専門的・発展的に学習する科目 スポーツ倫理学、スポーツ哲学、現代スポーツ論、メンタルトレーニングの原理と方法、動きの解剖学、スポーツと企業、スポーツ技術論、スポーツ戦術論、身体表現論、運動観察論、パフォーマンスと体力、コンディショニングのスポーツ生化学、アンチ・ドーピング、健康社会学、精神保健学など
卒業研究領域科目	選択した研究領域の最新の知見や研究方法を習得するための演習・実習型科目 卒業研究領域ごとに開設された演習・実習、専門語学、卒業研究
実技系科目	各自の専門とする運動種目の実技能力及び指導力のレベルアップを目的とする科目 種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、保健体育科指導法



▶ 大学院 人間総合科学学術院

人間総合科学研究群

体育学学位プログラム (博士前期課程)	本学位プログラムは、体育・スポーツ・健康・コーチングなどをキーワードとし、人間の身体と運動、その文化や環境、さらに心身の調整に関わる諸問題に対して学際的に取り組み、世界に類を見ない規模を誇る専門分野・領域を有する教育研究機関を基盤に展開され、自立・自律して研究活動を行うに必要な能力及びその基盤となる豊かな学識を培うことで、グローバル時代のトップランナーたる高度専門職業人を、また諸科学の深化を志向する研究者としての基礎を身につけた人材を養成する。
スポーツ・オリンピック学学位プログラム (博士前期課程)	これからの国際的スポーツ分野において必要とされる、高いマネジメント能力とスポーツのインテグリティ(高潔さ)を追究することができる人材養成を目的とする。国際オリンピック委員会、また国際競技連盟とも連携して今後求められるスポーツ人材の養成に当たる。
体育科学学位プログラム (博士後期課程)	体育・スポーツ・健康科学分野に関連する現代社会の課題解決への貢献をめざし、卓越した研究・教育活動を行うために必要とされる高度な能力及びその基盤となる豊かな学識や実践力を持ち、グローバルな視点にたつてリーダーシップを発揮できる人材を養成する。
教育学学位プログラム (博士前期課程)	人間の営みと社会の発展に対して教育がもつ意義と役割を体系的に理解し、地球的規模の広がりをもつ現代の教育課題を鋭敏に捉え、教育学諸分野の学術的アプローチを用いて分析する基礎的研究能力を有し、多様な教育現場において卓越した専門的知見をもって課題解決をリードすることのできる研究力のある高度専門職業人を養成する。
教育学学位プログラム (博士後期課程)	社会の急激な変化のもと対応を迫られる教育の具体的課題と、地球的視野をもって解決されるべき教育の本質的課題のそれぞれについて、教育学の幅広い学問的知見を基盤としての確かな研究方法をもって追究し、独創的な研究成果を国内外に向けて発信し、政策と実践の改革を国際的に先導することのできる教育学研究者ならびに高度専門職業人を養成することを目的とする。
ヒューマン・ケア科学学位プログラム (3年制博士課程)	教育学、心理学、福祉学、医学、看護学、保健学、等の専門領域の学問融合の観点から総合的・学際的にヒューマン・ケア、対人支援に関する課題を解明し、創造的に発展させる能力、実践的応用力を備えた大学教員、研究者、高度専門職業人教育者を養成する。
パブリックヘルス学位プログラム (3年制博士課程)	超少子高齢社会や地球規模で直面する多様な健康問題の解決にむけて、公衆衛生学の専門知識および関連領域の学際横断的知識と研究能力を備えた高度な公衆衛生学専門家を養成する。
スポーツ医学学位プログラム (3年制博士課程)	スポーツ医学に以下の観点から貢献でき、国際的にも通用する研究者や高度専門職業人及びこれらの人材を育てることのできる大学教員を養成する。 ・競技スポーツにおいて、科学的な見地から競技者の競技力向上に貢献できる人材。 ・生活習慣病や老化の予防を科学的見地から評価し、健康の維持・増進や疾病の予防・改善に貢献できる人材。
コーチング学学位プログラム (3年制博士課程)	国際的な視野と高い倫理観を備え、コーチング領域における高度な研究能力とコーチング実践力を養うことで、コーチング学に関する研究および教育を先導できる研究者、大学教員および高度専門職業人を養成する。
スポーツウエルネス学学位プログラム (博士前期課程)	スポーツウエルネスの推進に携わってきた実務経験を基盤として、両者の相乗的な推進効果を生み出す理念と方法を理解し、そのための基本政策や戦略を企画・立案・分析する能力、必要な資源を査定しシステム化する能力、高度なシステムを適切にマネジメントする能力、合理的なプログラムを開発する能力等を有した実践的な高度専門職業人を養成する。
スポーツウエルネス学学位プログラム (博士後期課程)	すでにスポーツまたはウエルネス領域で活躍する修士号取得者に対し、更なる研究・分析能力を養い、本領域における課題解決能力として国内外における交渉力や高度な実践的マネジメント能力を育成する。すなわち博士レベルの高度な研究力を保有した上で、イノベーションが必要な難度の高い課題解決のための政策力・プロジェクト実行力・マネジメント力を併せ持つ高度専門職業人を養成する。

他大学との共同専攻

スポーツ国際開発学共同専攻 (修士課程)	スポーツを通じて国内外の社会開発を担う人材、我が国の体育教育の制度と実践を理解し、諸外国に支援ができる人材、そして国際平和と友好、青少年教育を促進する国際機関で活躍できる人材を養成する。
大学体育スポーツ高度化共同専攻 (3年制博士課程)	体育スポーツ現場の教育と研究の循環を効果的に行える、高等教育における学術的職業人としての高度な体育教員を養成する。

▶ 入学者選抜

選抜方法	選抜内容
AC(アドミッションセンター)入試	定員8/240名 本学の教育目標である「国際化」、「未来志向」、「問題解決型人材の養成」に沿った人材である事に加え体育やスポーツに関する自分の実績や可能性を自ら推薦する、いわゆる自己推薦入学制度です。また、2025年度入試から、スポーツに関する科学的知識の主体的な活用と論理的思考力、およびそれらに基づいた、ひとつの運動種目における特に優れた技能や卓越した取り組みを多面的に評価する選考を実施します。書類による第一次選考、また第一次選考合格者に対して第二次選考を実施し総合的に判断して最終合格者を決定します。 一次選考 書類審査 … 入学志願票、志願理由書、高等学校調査書、自己推薦書、運動特技に関する調査書 二次選考 個別面接・口述試験
推薦入試	定員90/240名 高等学校長の推薦に基づき、大学入学共通テストおよび個別学力検査等を免除して、書類審査、小論文、個別面接及び実技検査により合格者を決定します。各高等学校から体育専門学群に推薦し得る人数は4名が限度となっています。 選 考 1 小論文 2 実技検査 … 事前に受験生の得意とする1種目を選択。 体操競技、ダンス、陸上競技、水泳、ハンドボール、バレーボール、バスケットボール、サッカー、ラグビー、硬式野球、テニス(硬式)、卓球、バドミントン、柔道、剣道、弓道 3 個別面接 4 精密健診(必要に応じて該当者に対して精密健診を行う) 5 書類審査
国際バカロレア特別入試	定員若干名/240名 国際バカロレア資格を取得した方を対象として、主体的に学ぶための知識や思考力、明確な目標を持って学ぶ意欲、また、語学力を含めたコミュニケーション能力などを重視して行う入試制度です。書類審査、個別面接・口述試験及び実技検査による選考を実施し総合的に判断して最終合格者を決定します。 1 書類審査…志願表、エントリーシート、成績証明書、運動特技に関する調査書 2 実技検査…事前に受験生の得意とする1種目を下記18種目の中から選択。 体操、器械運動、ダンス、陸上競技、水泳、野外運動、ハンドボール、バレーボール、バスケットボール、サッカー、ラグビー、野球・ソフトボール、テニス、卓球、バドミントン、柔道、剣道、弓道 3 個別面接・口述試験 4 精密健診(必要に応じて該当者に対して精密健診を行う)
外国学校経験者特別入試	定員12/240名 志願者の国籍を問わず、外国の教育制度のもとで一定期間以上教育を受けた者を対象に実施する入試制度です。私費外国人留学生等を対象とする第1種、帰国生徒等を対象とする第2種に分かれます。小論文、面接、実技検査による選抜を実施し総合的に判断して最終合格者を決定します。4月に入学したのちは、他の入試制度を受験した者と同じ教育課程で学び、日本語で学位を取得します。 選 考 1 小論文 2 実技検査…事前に受験生の得意とする1種目を国際バカロレア特別入試と同じ18種目の中から選択。 3 個別面接 4 精密健診(必要に応じて該当者に対して精密健診を行う)
個別学力検査等 - 前期日程	定員130/240名 個別学力検査は前期日程のみ行います。まず、大学入学共通テストの結果に基づいて、定員の約3倍相当の人数を第1段階合格者とします。さらに、この第1段階合格者に対し個別学力検査等を課して、その結果(740点)と、大学入学共通テストの結果(740点)を合計し、総合的に判断して最終合格者を決定します。 大学入学共通テスト 計740点 1 国語 200 2 地理歴史・公民…地総・地探、歴総・日探、歴総・世探、地総/歴総/公共、公共・倫、公共・政経から1科目 100 3 数学…数I・数A、数I、数II・数B・数Cから1科目 100 4 理科…物基/化基/生基/地基、物理、化学、生物、地学から1科目 100 5 外国語…英(リスニングテストを含む)、独、仏、中、韓から1科目 200 6 情報 40 個別学力検査等 計740点 1 実技検査…国際バカロレア特別入試と同じ18種目の中から、事前に志願者が最も得意とする1種目と、その次に得意な種目1種目、合計2種目(640)を選択。同じ種目を2度選択することはできません。 2 保健体育理論に関する論述試験 100 3 精密健診(必要に応じて該当者に対して精密健診を行う)

体育専門学群卒業研究題目一覧

(抜粋:日本教育大学協会全国保健体育・保健研究部門推薦論文)

2023年度	分野(領域)	論文題目
体育・スポーツ学		アスリートのメンタルヘルスに関する知識・態度の差異が生じる要因の調査および態度変容を促す方法の検討
		パラアスリートの障害/健常間の自己受容における意識変容について一死と再生の二重モデルに依拠して一
		バドミントン模擬授業におけるルーブリックの作成とその効果
		大学生アスリートの日常と多様性 体育会系の枠から脱する大学生アスリートたち
健康体力学		スポーツが居場所作りにもたらす影響について 在留外国人スポーツ組織を対象として
		女子バドミントン選手におけるスプリットステップの有効性
		ヒトの一過性低強度ランニングが記憶固定化に与える影響:脳内覚醒機構に着目して
		学生競泳選手における体組成と競技パフォーマンスの関係について
コーチング学		身体活動量が高齢者の睡眠の質に与える影響一抑うつと社会的交流の多重媒介効果に着目して一
		TRPA1が暑熱下運動時の皮膚血管拡張反応に及ぼす影響
		高強度泳中のスイミングエコノミーと100m, 200m自由形レース強度下におけるストロークパラメータの関係
		サッカー選手における後方に走りながらのジャンプヘディング
		大学生ダンサーのダンス創作活動における心的外傷後成長に関する研究
		一大会に向かう大学生ダンサー・アスリートを対象にして一
		剣道の攻防場面における反応戦略と競技力の関係
		長距離走における走動作改善に関する動感発生分析
	地蹴り現象の解消をねらいとした運動プログラムの考案	

2022年度	分野(領域)	論文題目
体育・スポーツ学		不登校児童生徒の能動的運動参加に関わる要因の検討
		一個別指導場面と一斉指導場面による比較とエスノグラフィーによる記述から一
		競技スポーツにおける集団・チームの多様な心理的特徴を評価する心理検査の開発
		留学生を交えた体躯の模擬授業での日本人学生の学習経験 一外国人児童生徒への指導の視点に着目して一
健康体力学		現代サッカーにおける審判員の存在意義 一判定補助テクノロジーとの関係に着目して一
		デジタル技術におけるスポーツの変容に関する研究
		トレッドミルでのランニングは屋外でのランニングを正確に再現しているのか?
		砲丸投競技者の上肢及び上部体幹の筋形態特性
コーチング学		大学野球投手におけるピッチング後のアイシングが血管内皮機能に及ぼす影響
		脳グリコーゲンの慢性的枯渇が運動時のエネルギー代謝に及ぼす影響:脳グリコーゲン合成酵素欠失モデルを用いて
		生体電気インピーダンス法により得られた測定値とサルコペニアとの関連 一ニュートラルネットワークを用いた検討一
		サッカーのインステップキックにおける支持脚の特徴 一シュートとロングキックの比較一
	大学剣道選手における視機能に関する研究	
	野球における送球イップスに関する運動学的研究	
	世界トップレベルの女子ハンドボール競技におけるセットアタックで用いられる有効なドリブルプレー	
	筑波大学ラグビー部における2019-2022シーズンのラインアウト防御パフォーマンスの変遷とその要因の検証	

2021年度	分野(領域)	論文題目
体育・スポーツ学		運動が苦手な子どもの体育の授業における居場所感の重要性
		大学陸上競技選手の身体運動能力の発揮における色彩環境の影響
		ドン・ドレーガーの武道観に関する研究
		大学の体育会系部活における就職活動に関する研究 一OBネットワークに着目して一
健康体力学		イギリスにおけるLower Socio-Economic Groups(LSEG)を対象としたスポーツ政策に関する研究
		夜間の運動が睡眠障害を有する高齢者の睡眠に与える影響 一低強度と中高強度の比較一
		高強度走行時の酸素摂取量の時定数を用いた中距離ランナーの体力特性の評価
		競泳競技選手における運動時息止めによる循環応答の個人差と50m自由形泳パフォーマンスとの関係
コーチング学		一過性低強度走運動は意欲中枢を刺激するか側坐核におけるモノアミン放出からの検討
		大学ラグビー選手の暑熱環境下における運動パフォーマンスと水分摂取状況、主観的データのポジション別検討
		短距離選手におけるスタートからの加速能力とペダリング運動能力との関係
		女子競泳選手におけるバタフライのストローク動作と手部推進力の関係
		新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合・審判法適用前後の比較研究
		一剣道における打突の好機に着目して一
		ドイツ体操におけるHaltungsschulungの運動課題並びに実施に関する研究
		女子ハンドボール競技における左利き右バックコートプレーヤーのシュートプレー 一世界トップレベルと日本の学生選手の特徴一

2020年度	分野(領域)	論文題目
体育・スポーツ学		映像フィードバックと重心意識が柔道における乱取練習の質に及ぼす影響
		運動有能感の向上に効果的な運動プログラムの工夫点についてメタ分析を用いた検討
		ホームゲームの観戦動機と大学への帰属意識に関する研究 一筑波大学体育会学生を対象に一
		「人間力」言説から見るアスリートの社会的様相
健康体力学		運動部活動における「殴られ役」についての研究 一スケープゴート論を手掛かりとして一
		中鎖脂肪酸置き換え食とトレーニングの同時介入がラットの有酸素能力に与える影響
		乳由来核酸成分Xにより生じる低代謝効果とその神経基盤
		新型コロナウイルスのパンデミックによる外出自粛要請が運動サークルに所属する高齢者の身体活動および心身の健康にもたらす影響
コーチング学		新型コロナウイルスによる自粛生活中の大学生アスリートの生活習慣に関する研究
		バドミントン選手におけるフットワーク能力と多方向への移動を伴うジャンプ運動によるSSC運動遂行能力との関係性
		スノーボード初心者時の体験がスノーボード・コミットメントの形成に及ぼす影響
		クロール泳の中距離ベースにおける泳動作, 手部推進力および筋活動の関係 一競技レベルの異なる泳者間の比較一
	リズムについての再検 一現代的なリズムのダンスを捉えるための基礎的研究として一	
	国内男子トップカテゴリー 一のバレーボールにおけるアタックと勝敗に関するゲーム分析	



▶ Q&A

Q 一般教養的な学習はどのようにできるのですか？

本学の授業は、教養課程と専門課程という段階的な区分を設けずに行われています。その代わりに、一般教育的な科目と専門教育的な科目を有機的に統合し、4年間(医学類は6年間)を通じての履修によって大学教育本来の目的が達成されるように計画されています。

他大学の一般教養科目に相当するのは、本学では専門導入科目及び総合科目になります。2024年度は学期完結型の科目を中心に、多分野に渡り約160科目が開設されています。

Q 学群で開設している授業の詳細は？

全ての開設科目は、毎年作成される「開設授業科目一覧」にまとめられています。ここではそれぞれの授業の概要等について記載されています。また、更に詳しい内容については授業計画、内容等を記載したシラバスを毎年公表しています。これらはすべてインターネットで閲覧できます。

Q 教職課程や教育実習について詳しく知りたいのですが？

本学では教員免許状取得の所要資格を得るための課程として教職課程を設けています。この課程は卒業に必要な授業科目と並行して履修することになります。本学の教育実習は、附属学校または茨城県内の協力校等で実施することが原則ですが、事情によっては母校で実施することも可能です。

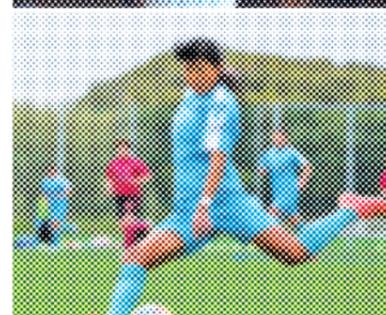
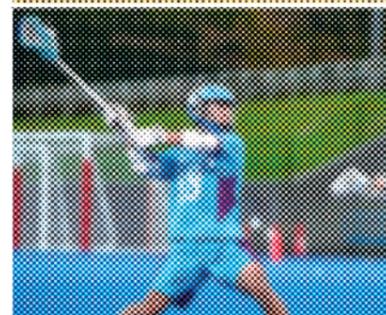
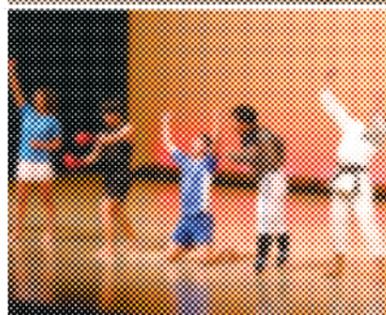
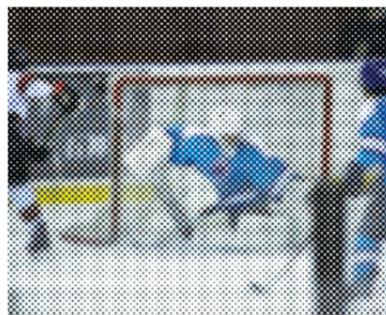
Q 取得できる免許や資格はどのようなものですか？

本学群で取得できる資格は、まず中学及び高校の教員免許(保健体育)です。2023年度は154名が教員免許を取得することができました。同時に特別支援(2~5領域)の取得も可能です。また、(財)日本スポーツ協会公認アスレチックトレーナーの資格取得に必要な、養成講習会の受講免除等が適用されます。

その他には、社会教育関係の単位を多少加えて取ることで、社会教育主事となるための基礎資格などを取得できます。

Q 運動部活動は授業に支障を来さないでしょうか？

運動部活動は基本的には課外活動ですが、体育専門学群の場合には授業と相互に連動して成果を上げられるように配慮されていますので、両方も積極的に取り組むことができます。



Q 留学制度はありますか？

筑波大学では、67カ国・地域及び国際連合大学と学生交流に関する合計382協定(2024.5.28現在)を締結しています。この協定に基づき、本学から相手大学等に学生を派遣するものが、交換留学です。協定校への交換留学には、次のようなメリットがあります。1筑波大学及び独立行政法人日本学生支援機構が実施する奨学金制度に申請できます。2授業料相互不徴収に関する協定を締結している指定校にあっては、相手大学での授業料が免除されます。

Q 学生宿舎の生活はどんな感じですか？ また下宿案内はありますか？

学生に良好な勉学の環境を提供し、自律的な市民生活を体験させることを目的として学生宿舎を設置しています。学生宿舎は一の矢地区、平砂地区、追越地区及び春日地区に計67棟設置され、約3800室の部屋があります。宿舎の各居室にはベッド、机、洗面台、宿舎電話などが備え付けられ、生活に必要な身の回り品などを揃えれば生活できます。

宿舎各棟には洗濯室、補食室、シャワー室なども併設され、各地区(春日地区を除く。)の学生宿舎共用棟には、管理事務室(春日地区は1号棟1階)・理容室・電気店があり、その他に平砂共用棟に共同浴場、一の矢共用棟に売店があります。

学群の新入生は優先的に入居できるように配慮されていますが、入居希望者が計画数を上回った場合は、大学近隣からの通学可能者は入居できないこともあります。

なお、キャンパスの国際化推進のため、2017年4月から国際交流を重視したシェアハウスタイプの学生宿舎(グローバルヴィレッジ)が運用開始されました。

その他、間取図などの詳細情報は、大学HPに宿舎案内が掲載されています。

また、大学の周辺には多くのアパートがあります。大学から物件を直接斡旋することはありませんが、徒歩圏内にはたくさんの不動産仲介会社がありますので、希望条件(家賃、間取り等)をきちんと伝えることで、自分に合った物件を探すことができます。

Q サークルはたくさんあるのですか？

本学には多くのサークルがあり、種目もレベルも多岐にわたっていますので、各自の希望にあったサークルを選択することが可能です。体育系以外にも、文化系や芸術系のサークルが多数あります。

Q 主な就職先、職種について教えてください。

学群はこれまでの伝統を受け継ぎ、入学時には大半の学生が卒業後の進路として教職を希望しています。最近では児童生徒の減少に伴い、教職員の採用を手控える自治体が多くなり、本学群卒業生の教職員への就職は年々減少する傾向にありました。しかし、今後は徐々に教員の需要が増加することが予想されます。

またトレーナーを希望する人が多いのですが、トレーナーという職種は現在我が国では必ずしも確立されておらず、職業として従事できる可能性はあまりありません。これまでにトレーナーになった人は、アスレチックトレーナーの資格を取ることに加えて、卒業後に鍼灸師や柔道整復師などの資格を取得しています。

一方、民間企業においては体育専門学群学生の人気は高く、かなり広範な職種に就職し活躍している人が増加しています。そのための就職活動は3年生の後半から始まりますが、大学が提供しているサポートシステムを積極的に活用することが成功の鍵となります。

体育総合実験棟 SPEC

スポーツの知 ―― それはアスリートにとって必要なものです。心・技・体の調和をはかり、アスリートの競技力向上や、スポーツパーソンのスポーツライフをサポートするための施設、それが体育総合実験棟SPEC (Sport Performance and Clinic Lab.)です。

スポーツを科学的にとらえ、最新の設備と情報を用いて精度の高い実践的な研究を進めるとともに、アスリートに対して積極的に施設を開放することによって研究と現場を結びつける重要な役割を果たします。

また、SPECは、1競技力向上への貢献(アスリートへのサポート)、2地方公共団体・他研究機関との連携、3スポーツ医科学の知と技を持った実践家(トレーナー、コーチ、スポーツカウンセラー等)の養成、4スポーツ関連情報の発信(公開講座、セミナー等)という4つの理念のもとに活動しています。独立した4つの理念がSPECを通じて融合し、アスリートを総合的にサポートする理想的な環境を実現します。

SPECは国内最高水準の研究と実践の場として、常にスポーツ医科学分野のパイオニア的存在でありたいと思っています。アスリートのサポートを通じて、スポーツ医科学の知と技を持った人材の育成にも力をいれ、ハード面のみならず、ソフト面での充実を図ります。

人はスポーツを通じて喜びや感動を得ることができます。すばらしいスポーツ文化の一端を担えるよう、SPECは日々努力していきます。

1階 多目的実験ゾーン

多目的実験ゾーンと呼ばれるこのフロアは、各種のスポーツ動作を主としてバイオメカニクスの手法により分析し、一流選手や熟練者の技術と比較したり、アスリートの技術や指導法などに関するアイデアを検証したりするための空間です。

体育館のような多目的実験室では、各種スポーツ動作のバイオメカニクスの分析(VICONによる3次元動作分析、地面反力の測定、高速度VTRによる撮影、筋電図測定など)を行うことができます。動作解析室では撮影したVTRを分析したり、より高度な計算を行うことができます。

また、このゾーンでは、バイオメカニクスやコーチ学に関する知と技を持ったスポーツコーチの育成を行います。1階入口ホールには、野外活動実習用のクライミングウォールもあります。

2階 リハビリ・トレーニング実験ゾーン

リハビリ・トレーニング実験ゾーンと呼ばれるこのフロアは、様々なスポーツ傷害のアスレティックリハビリテーションや競技力向上を目的としたトレーニングを行います。

早期で安全な競技復帰はアスリートにとって重要な課題です。ドクターとアスレティックトレーナーの連携のもと、アスリートの円滑な競技復帰をサポートします。

また、このゾーンでは、スポーツ医学や体力学に関する知と技を持ち、スポーツのメディカルサイドで必要とされるアスレティックトレーナーの育成を行います。

3階 体育系共通ゾーン

体育系共通ゾーンと呼ばれるこのフロアには、アスリートの心の問題や栄養の問題に対応するための相談室などがあります。前者では、箱庭療法、風景構成法などの表現療法やメンタルトレーニングなどを体験することができます。

また、このゾーンでは、心理学や栄養学に関する知と技を持ったカウンセラーの育成を行います。フロアには、体育、スポーツ健康科学に関する様々な研究を推進するためのプロジェクト研究室や、セミナールームもあります。

グローバルスポーツイノベーション棟:GSI棟

本学体育系では、複数の大型プロジェクトを展開すると共に、更に新たな事業計画の立案、推進を行っています。GSI棟は、これらをより円滑に、かつ効果的に推進するための教育研究施設です。我が国随一の体育・スポーツ分野の国際連携拠点の構築を目指しています。

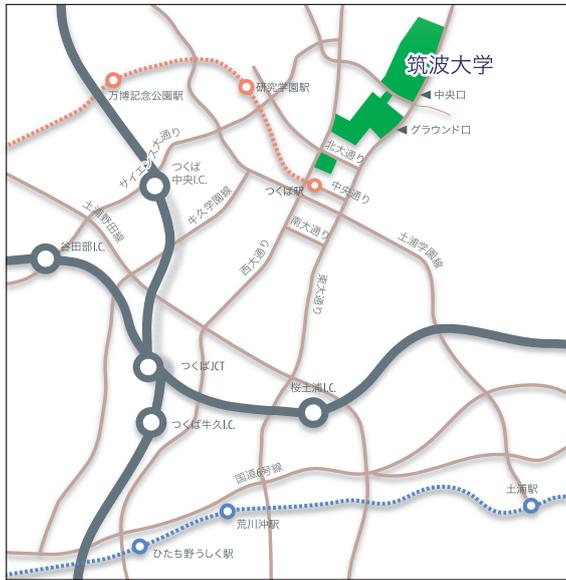
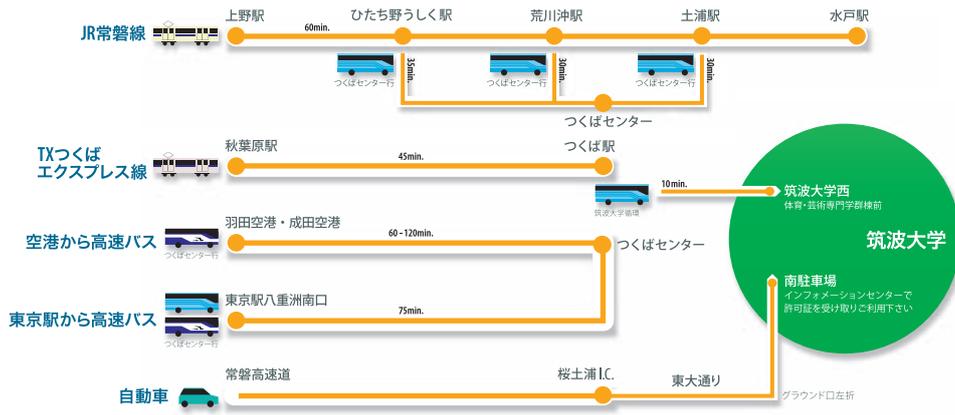


国際性の日常化への取り組み

国際性を高めることをねらいとして、体育専門学群生および留学生の交流や国際的活動に関する情報交換、体育専門学群生の英語力向上に向けた個人またはグループによる学習機会を設けています。



大学までのアクセス・キャンパスマップ



- 施設
- 運動施設・農場
- ペDESTリアン
- インフォメーションセンター
- バス停
- バス停(高速バス)
- 駐車場

